

第177回「元気に百歳」クラブ 俳句サロン「道草」を開催

4月の俳句サロン「道草」は、4日（木）に「新橋ばる一ん」で開催されました。寒気団の南下でこの数日は、またまた寒さに震える日が続きました。今日は教室に入りますと、住田先生、君塚明峰さん、本間傘吉さんが、すでに在室しておられ、明峰さんは電話中でしたし、住田先生は資料の整理にお忙しそうでした。やがて皆さんもいらっしやって、開講ということになりました。本日のご出席は、芦川創風さん、井上蒼樹さん、奥田和感さん、君塚明峰さん、辻柴楽さん、原晶如さん、本間傘吉さん、森田多佳さん、芦尾白然の9名です。中島憧岳さんが教室まで来ておられたのに、ご体調が悪くなり、急遽お帰りになったとのこと、どうぞお大事になさってください。本日、欠席投句でのご参加は、板倉歌多音さん、上田枯葉さん、住田幸佳さん、中澤松女さん、船戸清助さんの5名でした。

住田先生は、先週も少し話されたご友人「川島清實さん」の御祖父、川島奇北さんのことを、資料を配布し詳しく話して下さいました。ご出身が埼玉県行田市で、お父上が当時の葛飾郡長などのご要職を歴任された教養の高いご家族で、奇北さんもその影響を受け中央文壇に関心を持ち、高浜虚子の仲介で正岡子規の門を叩き、ホトトギス派の俳人として活躍されたことを説明して下さいました。ご友人の川島清實さんとは、現役時代（同僚であられた君塚明峰さんも同じ）からのご交流が続いています。住田先生は、勿論、俳人川島奇北さんのことは知っておられましたが、川島清實さんが、奇北さんのお孫さんであられたとは、実はご存知ではなかったとのこと、奇遇とはかくしたものでしょう。さて本番です。先生が準備して下さいました席題と、皆さんが詠まれ、選考選句した天賞句と最多得票賞句（☆印）は次の通りです。

席題1. 「入学」又は「入社」

- ◎『入学す悪戯つ児の得意顔』 傘吉
- ◎『入学の子と背比べ送り出す』 晶如

席題2. 「花冷」

- ◎『花冷やフルートの穴光りをり』 晶如

席題3. 当季雑詠の自由題句

- ◎『和菓子屋の小さき春を買いにけり』 明峰
- ◎『今生きる君にエールの桜咲く』 歌多音（投句）
- ◎『友逝きぬ「令和」の春を待たずして』 蒼樹
- ◎『制服のスカート揺らす桜東風』 幸佳（投句）
- ◎『頁めくる万葉集に春かほる』 白然
- ◎『木曾川を廻す山城春の雪』 晶如

（道人の一句）

花冷や「平成」惜しむ句座に座す 住田道人

席題1. では、傘吉さんの句「入学す悪戯つ児の得意顔」が、天賞一つと最多得票賞（☆印）を獲得しました。この句に投票された皆さんは、鼻の穴を脹らましている「悪戯つ児の得意顔」が、浮かんで来たに違いありません。晶如さんの句「入学の子と背比べ送り出す」も天賞一つを獲得しました。この句は背比べをして、もう負けるほど大きく成長した入学生です。きっと中学校への入学生でしょう。その子を送り出す光景です。選者はその微笑ましい状況に共感を持たれたのでしょうか。

席題2. では、天賞句が出ませんでした。全句の中から、晶如さんの句「花冷やフルー

トの穴光りをり」が、最多得票賞句（☆印）に輝きました。金属楽器であるフルートの冷たい光を捉えた句ですが、中七の「フルートの穴」が光るところに、票が集まったのではないのでしょうか。フルートの穴は、金属のボタンが並んでいるような複雑な構造になっていて、ここから発せられる光は、謎めいているように思われます。作者は誰も思いの届かぬものにスポットライトを当てられました。

席題3. の自由題句では、天賞句が6句も生まれるという珍しいことになり、投票が分散しました。句の持つ力が伯仲していたのでしょうか。まずは最高得点の明峰さんの句「和菓子屋の小さき春を買いにけり」が、天賞三つと最多得票賞（☆印）を獲得されました。和菓子屋さんの陳列棚を飾るお菓子の数々、それぞれに「春」が香っているのだと思いますが、明峰さんは中七、下五で「小さき春を買いにけり」と絶妙の表現をされ、「買う」という動きを、きらりと光らせました。お見事でした。次は投句の歌多音さんの句「今生きる君にエールの桜咲く」が、天賞一つを獲得しました。読者はこの句に励まされ、元気をいただきました。上五、中七の「今生きる君」を、ご自身と重ねられたことでしょうか。もう1句、幸佳さんの投句「制服のスカート揺らす桜東風」が、天賞一つを獲得されました。この句は下五の「桜東風」に、選者が魅かれたのでしょうか。時あたかも入学式のある制服の目立つ時期です。そんな制服が桜東風に揺れていたのでしょうか。次に蒼樹さんの句「友逝きぬ『令和』の春を待たずして」も、天賞一つを獲得しました。丁度、新元号の「令和」が公表されたときです。一か月後の施行される時まで待てなかったご逝去という事態に、選者が共感されたのだと思います。白然の句「頁めくる万葉集に春かほる」も、天賞一つをいただきました。この句は新元号設定までの経緯を捉えました。手持ちの万葉集で、八百十五番の序「于時初春令月、気淑風和」を確認し、序末尾の「蘭薫」を下五で「春かほる」と詠み替えさせていただきました。もう一句、晶如さんの句「木曾川を廻す山城春の雪」も、天賞一つを獲得しました。この句は中七、下五で表現された「山城の春の雪」が主題の句ですが、上五で「木曾川を廻らせた」と、あたかも城のために木曾川を廻らされたと、木曾川廻りにかけた時間のゆったり感を、読む側に感じさせる句になっています。選者はその辺りに一票を投じられたと思います。本項の冒頭に申し上げましたように、今回の席題3. の選句は、各句に票が割れるという結果になりました。皆さんご苦心の句作りが、それだけ魅力的な句に仕上げたということになるのでしょうか。

もう一つ申し上げておくことがあります。住田先生は、もし本日、枯葉さんがご出席なら「卒寿お誕生日」を祝して、先生の詠まれた祝句を献上し、本日出席者のサインつきの色紙を差し上げる準備をされていました。枯葉さんは、本日はご欠席でしたが、皆さんのサインつきの色紙は、予定通り準備され贈られました。後日、枯葉さんから「皆さんのやさしい気持ちに感謝します」とのお礼のメールが届きました。住田先生、ご配慮をいただき有難うございました。枯葉さん、お元気でね！

今回の二次会は、私事で恐縮ですが、抛無い事情があり白然は欠席致しました。実は、傘吉さんをお願いして、二次会の様子を教えていただきました。二次会の開催された場所は、洋酒居酒屋ローズ&クラウン新橋店、ご参加は住田先生、創風さん、蒼樹さん、明峰さん、傘吉さん、和感さん、晶如さん、多佳さんの8名で、いつものように和やかな明るい二次会になったと伺いました。特筆すべきは、明峰さんから「今秋の吟行は、行田市で催しましょう」とのご提案があり、そうしようということになったようです。傘吉さん、連絡のメール有難うございました。次回は、5月8日（水）に「新橋ぼる一」で開催されます。皆さん、また元気にお会いしましょう。

白然記